

(執筆)北野浩一

「ファミリービジネスの経営と革新：アジアとラテンアメリカの比較」研究会
(主査：星野妙子)

第2回研究会 議事録

- ・ **日時** 平成15年 5月16日 13時～15時
- ・ **場所** 東京大学 社会科学研究所
- ・ **出席者**(敬称略) (内部)星野妙子、坂口安紀、川上桃子、浜口伸明、清水達也、佐藤百合、東茂樹、今泉慎也、荒神衣美、北野浩一
(外部)小池洋一、末廣昭、高龍秀、中村尚史、沼崎一郎
- ・ **欠席者** 安部誠、渡邊真理子、近田亮平
- ・ **配布資料**
『台湾における「老板」的企業ネットワークの生成と展開 開発の人間関係学・試論』(沼崎)

・ **議題1 『台湾における「老板」的企業ネットワークの生成と展開 開発の人間関係学・試論』 報告：沼崎一郎 講師(東北大学 助教授)**

「台湾の家族企業」というとき、その定義には疑問がある。企業所有が、家族外の出資者の参加があり、また、家族メンバーが独自にバラバラの企業に投資しているケースもある。むしろ「家族間企業」と呼ぶに相応しい。これは、漢民族の文化的伝統ともいえる。

台湾企業の主な供給先は、アメリカの大規模小売業であったが、その需要は季節毎の変動が大きく、品目も変化する。台湾の中小企業はこれに柔軟に対応することが可能であったため成長し、ネットワークも形成されてきた。

台湾は、資本や技術が分散的に蓄積されている経済といえる。これが海外進出を果たした時にどう変容するか興味深い。また、個人間の関係が企業ネットワークの形成に大きな役割を果たしているケースもあり、そのようなミクロの関係がどのようなマクロの現象として現れているのかを解明するのが、今後の課題である。

コメント 『90年代の台湾の現象』 (川上委員)

90年代には、企業の継承が起り、親の世代ではパートナーシップであったような企業が、特定の家族に所有が集中しつつある。産業構造も変容し、分散型蓄積から企業の内部への技術や労働資源が蓄積している。

これに伴い、創業者家族の役割にも変化が見られる。専門経営者の登用もすすみ、また投資も個人間の関係というよりも、戦略的投資が増加している。

議論

- ・ パートナーシップの構成：基本的には個人であるが、台湾の場合、家族間でのパートナーもよく見られる。これは、中国人一般にあてはまるものである。
- ・ 企業ネットワークの経営組織面：「老板」が経営者で、彼がいくつもの企業のトップとなっている。共同投資は企業に対して、というよりプロジェクトに対してなされると見ることができる。投資プロジェクトが長期化・巨大化した時にゴーイング・コンサーンとしての企業や企業グループに投資がなされるのではないか。
- ・ 「家族」の各国における違い：所有と経営の継承という観点では、兄弟間の関係が重要ではないか。親の資産を兄弟が連合体として所有するか、否かで大きく異なる。中国人は親が存命中に、兄弟間での資産の分配を決めているケースが多い。
- ・ 資本調達における銀行からの間接金融の役割：90年代には、パソコン・半導体は直接金融の比率は高いが、全体で見ると間接金融の比重が大きくなっている。
- ・ 「家族」の資産：国によっては、家族の合議体（カウンスル等）が資産を管理しているケースもみられる。

・ 次回予定

日時：6月20日（金）15時～17時

場所：東京大学社会科学研究所